

【小学校第5学年の実践】**1 主題名**

支え合い助け合おうとする人々への感謝【B 感謝】

2 教材

「北海道」の名付け親 松浦 武四郎（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】**(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】**

自分たちの生活が、多くの人々に支えられ、助けられて成り立っていることに気付き、広く人々に尊敬と感謝の念をもつことに関する内容項目である。人が自分のためにしてくれている事柄に気付くこと、それはどのような思いでしてくれているのかを知ることによって芽生え、育まれる。そこには、人との関わりが必ず存在する。よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ、助けられて自分が存在するという認識に立つとき、お互いに尊敬と感謝の気持ちが生まれてくる。そして、それは、日々の生活、あるいは自分が存在することに対する感謝へと広がる。このことから、身近な人々から見えないところで日々の生活を支えてくれる人々まで、成長とともに、尊敬と感謝の気持ちが広がっていくよう指導することが求められる。

第5学年の指導に当たっては、過去から、人々が何を願い、何を残し伝えてきたのか、それは自分の生活とどう関わり、支えられているのかに気付くことができるようにすることが大切である。支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き、感謝する心情について多面的・多角的に考えさせ、温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践しようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き、温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝する態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①体育科

体育科では、鉄棒の学習で、ペアやグループでの学び合いを意図的に取り入れることを通して、長所や短所を補い合い、互いを認め合いながら活動することの大切さを実感することで、相手への尊敬や感謝の気持ちが芽生えてきている。

②特別活動（宿泊学習）

宿泊学習では、火おこし、炊飯、調理と役割を分担し、自分の仕事に責任をもってやり遂げることはもとより、互いに認め合い、助け合いながらカレーライスを作ることを通して、仲間への感謝の気持ちが見られた。

③日常の指導

日常の指導では、「ありがとう」と言葉にして伝えることに取り組んでいる。配付されたプリントを受け取る時や、落とした物を拾ってもらった時、困っている時に声をかけてくれた時などに「ありがとう」と言葉にして伝えることで、支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き、感謝する態度が育っている。

これらの取組を通して、仲間のがんばりを認めたり、励ましたりする中で、自分の目の前で起きた事柄に対して、素直に感謝の気持ちをもとうとする姿が見られるようになってきた。

一方で、自分の生活が家族や友だち、先生や地域の方などたくさんの方々にお世話になっていることを知ってはいるものの、周りの人々の支えや助け合いで日々の生活が成り立っていることに感謝の気持ちを持ち、自分には何ができるかを考えようとする意識は低い。

このようなことから、本時の学習では、松浦武四郎と自分を重ね合わせながら、支え合い助け合おうとする人々の善意に気付かせ、温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てたい。

(3) 教材について【教材観】

支え合い助け合おうとする大切さやよさについて多面的・多角的に考えさせるために、本道を「北加伊道」と名付けようとした時の武四郎の気持ちを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→武四郎が「北加伊道」と名付けた場面

◆意 図：武四郎がどのような思いで「北加伊道」と名付けたのかを問うことにより、支え合い助け合おうとする人々の善意や温かなつながりの中に自分の生活があることについて考えさせ、価値理解を深められるようにしたい。また、互いの考えを交流することにより、他者理解を促すとともに、他の内容項目と関連させながら、感謝について多面的・多角的に考えさせたい。

武四郎の思い：アイヌの人たちのおかげで北海道の調査をやり遂げることができた(責任)
お世話になったアイヌの人たちに関わりのある名前を付けたい(思いやり)
アイヌの人たちとお互いに分かり合えてよかった(相互理解)

2 「○基本発問」の場面

→武四郎が、ごはんを平等に分け、アイヌの人たちと同じものを食べた場面

◆意 図：アイヌの人たちは武四郎のことをどのように思っていたのかを問うことにより、アイヌの人たちの立場からも多面的・多角的に考えさせ、人間理解を深められるようにしたい。

アイヌの人たちの思い：食べ物を平等に分けたり、一緒に暮らしたりするなんて、これまでの役人とはちがってやさしい人だな。

→アイヌの人たちが、お礼も受け取らずに武四郎に干し魚を分けた場面

◆意 図：アイヌの人たちのおかげで、自分が探検を続けることができていることに対する武四郎の気持ちを話し合い、感謝についての価値理解を深められるようにしたい。

武四郎の思い：自分たちの食べる分がなくなるのに、親切にしてくれるアイヌの人たちに対する感謝の思い。

4 ねらい

松浦武四郎の生き方に触れることを通して、自分の生活が、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする態度を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導入	●自分の生活を支えてくれている人について発表する。 ○これまで自分の生活を支えてくれた人は、どのような人ですか。 ・家族 ・友達 ・先生 ・習い事の先生 ・地域の人 ●松浦武四郎について知る。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分の生活を支えてくれている人たちを想起する場を設ける。 ・松浦武四郎や北海道命名150年に関連する教材を提示し、関心を高める。	【工夫①】 ・武四郎と北海道との関わりをパワーポイントで示すことで、内容を捉えやすくし、考えやすくする。
展開	●教材「『北海道』の名付け親」を読み、話し合う。 ○自分たちと同じものを食べ、食料を平等に分ける武四郎のことを、アイヌの人たちはどのように思っていたでしょうか。 ・これまでの役人とはちがうな。 ・食べ物を平等に分けたり、一緒に暮らしてくれたりして、やさしい人だな。 ○武四郎は、干し魚を分けてくれるアイヌの人たちのことをどのように思っていたでしょうか。 ・なんてやさしいんだ。 ・自分たちの食べる分がなくなるのに。ありがたい。 ・こんなに親切にしてくれるなんて。 ◎武四郎は、どのような思いで「北加伊道」と名付けたのでしょうか。 ・やさしくしてくれたアイヌの人たちへのお礼を込めて。 ・アイヌの人たちへの感謝の気持ち。 ・いつまでもアイヌの人たちを忘れない。	・アイヌの人たちの立場から考えることで多面的に考えられるようにする。 ・アイヌの人たちのおかげで、自分が探検を続けることができていることに対する武四郎の気持ちを話し合い、感謝についての価値理解・他者理解を深める。 ・他の内容項目(思いやり、相互理解、責任など)と関連させながら、感謝について多面的・多角的に考えさせる。 ・ワークシートに考えを記入させる。	【工夫②】 【個人思考】 ・個人で考える時間を十分に確保した上で意見交流を行う。 ↓ 【ペア・グループ交流】 ・少人数で交流することで、話しやすい雰囲気の中で発言できるようにし、議論の活性化につなげる。 ↓ 【全体交流】 ・個人→少人数→全体という段階を踏み交流することで、多くの考えを取り上げるとともに、整理しながら話し合いを進める。
	●自己を見つめる。 ○自分を支えてくれる人や助けてくれる人に対して、どのように関わっていきたいですか。 ・「ありがとう」という言葉をしっかり伝えたい。 ・支えてもらえばかりではなく、自分もその人のためにできることをしてあげたい。	・自分の生活や生き方を振り返り、自己理解につなげる。 ■自分の生活を支えてくれている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする思いについて考えを深めることができたか。	【工夫③】 ・道徳的価値について、自分との関わりで考えることができるようにするため、 ①直前の中心発問において、グループや全体での交流を行い、「感謝」について多面的・多角的に考えさせるなど、児童の思考が広がり、深まった状態になってから自分事として考えさせる。 ②導入時に取り上げた「自分を支えてくれる人」(板書)を振り返り、学習を通して考えが深まったことを自覚できるようにする。
終末	●振り返りシートを書く。 ●教師の説話を聞く。	・周りの人に感謝し、それに応えようとする態度が育まれるようにする。	

6 板書

自然愛護

思いやり

感謝

相互理解

責任

7 ノート・ワークシート

「北海道」の名付け親 松浦 武四郎

月 日 () 名前 ()

メモ

1. 武四郎は、どんな思いで「北加伊道」と名付けたのだろう。

2. あなたは、自分を支えてくれている人や助けてくれる人に対して、どのように関わっていきたいですか。

「たぶん自分はなにげなく生きているけど、こんな適当に生きている自分でも支えてくれている人がいるから、松浦武四郎のようにやさしくていい人になりたい。えして、支えられてる分、しっかり生きたい。」

支える人に対してちゃんとおんがえしなどができるように、自分にできることをやる。

友達や家族みんなにやさしくしたりして、次は自分が支えてくれる人や助けてくれる人になりたいです。

感謝の気持ちをわすれず、そだててくれているありがとう。み、ふつうに生きているのは、やっぱり支えている人のおかげだから少しでも恩返しをしたい。

自分の周りには、自分を支えてくれている人がたくさんいて、何気なく使っている水や電気を管理している人も支えてくれているということがわかったので、つねに感謝の気持ちを持って生活していく。

【授業実践を振り返って】

お互いに支え合い助け合うことの大切さやよさについて自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問を吟味し、「どのような思いで『北加伊道』と名付けたのだろうか」と問いかけました。児童からは、

- ・アイヌの人たちのおかげで夢(北海道の調査)を叶えることができた。(責任を果たす)
- ・信頼し合ったアイヌの人たちの思いを残したかった。(信頼関係を築く)
- ・お世話になったアイヌの人たちがいつまでも幸せにいらしてほしい。(思いやりの心をもつ)
- ・アイヌの人たちが大切に自然がいつまでも豊かであるように。(自然を大切に)

といった発言が出され、「責任」「相互理解」「思いやり」等の道徳的価値と関連させながら、自分との関わりで多面的・多角的に考え、「感謝」について考えを深めることができました。